

日本気象学会東北支部 第2回理事会 議事録

日時：2024年2月26日（月）10:00～11:30 オンライン会議

参加者（敬称略） 小出、早坂（本部理事）、山崎、中野、森本、細見、齊藤、橋本、山本、岩渕、伊藤、蒔苗、楠本、中川

欠席者（敬称略） 菅原、杉山、谷田貝

小出

【挨拶】

秋季大会について、大会運営の在り方について再度の見直しが本部の方で検討されている。地方大会の実務を担っている支部事務局の体制についても同時に検討されている。これまであまりお知らせできていなかったのが唐突な印象をお持ちの役員もおられるかもしれないが、今後の学会運営をよりよく持続可能な形に改めていこうとする機会として捉えていただきたく、ご意見を伺いたいと思っているので、よろしく願います。また、本部理事で大会の在り方検討会 WG のとりまとめの担当をされている早坂先生にご出席をお願いしている。急なお願いにも関わらず出席していただき感謝申し上げます。

●議題1

【2023年度事業報告】

(1) 2023年度事業報告

蒔苗から報告

(2) 東北支部だより発行

蒔苗から報告

(3) 東北支部気象講演会

山本から報告

昨年度まではコロナの影響もあり、Web開催や、対面とWebのハイブリッド開催としていたが、今年度は気象台のマンパワー的なところも考慮しリアル開催（対面のみ）とした。

(4) 東北支部気象講演会

蒔苗から報告

(5) 日本気象予報士会東北支部と連携した活動（気象サイエンスカフェ東北）

蒔苗から報告

コロナ期間、開催できなかったが、今年度は対面で開催できた。

(6) 日本気象学会小倉奨励賞

細見から報告

2023年度については東北支部からの推薦はなし。

橋本

議題1について、何かご意見等あるか。無いようなので、次に行きたいと思う。

●議題2

【2023年度会計報告】

中川から報告

収入の部では、予算額とほぼ同様の73万円あまりが収入として入ってきた。支出の部では、支部だよりの項目では、昨年度末に発行された96号に関する経費を、当初2022年度会計に入れていたが、実際の支払いが昨年4月以降で、今年度会計に入れたほうが良いということで、支部だよりの決算額としては96号の経費を含む30万円余りの支出となった。

支出部分ではまだ年度末にかけて一部支払いがある可能性があるため、金額が確定でない項目（黄色部分）がある。今年度の収支（次期繰越額）はおよそ146,900を見込むが年度末にかけての支出額次第で変動する。

●議題3

【2023年度会計監査報告】

斎藤から報告

橋本

議題2,3について、何かご意見ご質問等あるか。

無いようなので、次に行きたいと思う。

●議題4

【2024年度事業計画案】

(1)東北支部理事会の開催

蒔苗から報告

予算縮減も考慮し、今年度と同様、1回目は対面とオンラインのハイブリッド型で、2回目はオンラインでやれたらよいと思っている。

(2)東北支部だより発行

蒔苗から報告

(3)東北支部気象講演会

山崎から報告

2024年度は山形県で開催予定、次の役員に山形地方気象台の方に入って頂き、中心となって検討していただくことになると思う。

(4)東北支部気象研究会

蒔苗から報告

(5)気象サイエンスカフェ東北

日時・会場等は3月以降杉山理事と検討していきたいと考えている。

(6)日本気象学会小倉奨励賞などへの推薦

細見から報告

2024年度については候補者推薦委員会から連絡が無い。連絡が来次第対応したいと思う。

(7)第34期役員選挙

選挙管理人については岩渕幹事にご相談させていただき内諾いただいているが、本理事会で了承いただきたい。

橋本

役員選挙の選挙管理人について、岩渕幹事をお願いするということによろしいか。

役員一同

異議なし。

橋本

了承されたので、岩渕幹事をお願いするということによろしく願います。

岩渕

よろしく願います。

●議題5

【2024年度予算案】

収入に関しては、本部からの振込額は、今期繰越金分を減額した額が振り込まれる予定で、計61万程度の予算となり2023年度と比較して12万程度減額となる収入案を組んだ。支出に関しては、減額に対応した形で、気象講演会やサイエンスカフェ、理事会などの予算額を減額した形の支出案を組んだ。収支は5000円程度のプラスを見込んでいる。

橋本

議題5について、何かご意見ご質問等あるか。

山崎

予算案の右側の2023年度決算部分について、支部だより部分の金額と支出合計の金額が先ほどの2023年度決算案と異なる。

中川

正しい金額に修正したのち、再度照会させていただく。

山本

気象講演会の予算について、最近の物価高を考えると、今年度よりマイナス5万円はかなり厳しい気がするが、それを考慮したうえでこの予算ということか。

蒔苗

印刷したポスター、チラシ等があまり集客に効果を発揮していないと考えられ、この辺の金額を見直すことで来年度はこの予算案で考えている。

山本

了解した。

斎藤

サイエンスカフェは5万円の予算となっているが、これほど経費が掛かるのか。

蒔苗

今年度は「たまきさんサロン」で開催したため会場費がかからなかったが、それ以外で開催する場合はそれなりの会場費を見積もる必要がある。

斎藤

了解した。

橋本

他にご質問等はありませんか、無ければ、来年度予算案について承認いただけるか。

役員一同

承認した。

橋本

役員一同の承認を得られたので、来年度予算案は承認された。

●議題6

【支部長会議報告】

小出支部長から以下3つの議題について報告と説明

3つの議題（①2023年度支部活動報告・2024年度支部活動計画、②秋季大会の取り組み状況、③その他「今後の気象学会の大会のあり方について」それぞれ報告があった。

橋本

③の部分については次の議題7について詳細を議論するので、①と②についてご意見・ご質問あればお願いします。無いようなので次の議題7で③についてより詳細部分をお願いします。

●議題7

【検討事項】

小出支部長から報告・説明

学会支部事務局について、

地方では地域防災支援に力を入れていることもあり、気象台側で業務としての事務作業を行うことが難しくなっている。この辺の問題について早坂先生から補足を頂きたい。

早坂

WG では支部全体の活動に関するものではなく、大会のあり方についての WG。もちろん大会のあり方と支部活動を切り離して議論することはできないのだが、ここでは大会のあり方ということで補足させていただく。

議論の背景として、JPGU という大きな大会が 5 月下旬に行われるのだが、その前の週あたりに気象学会の春季大会が行われていることが多く、2 つの大会の開催時期が極めて近い時期に行われているということがあった。コロナ渦となって、春季大会を緊急避難的にオンライン開催することになった。最近コロナが 5 類になり収束傾向になった。今も春季大会はオンライン形式で開催しているが、参加者が減少している。背景としてやはり翌週に JPGU があるということと、アンケートを取ると、学会の大会というのは実際に会って質疑応答する、発表後にも発表者に対して直接議論ができるなど、対面で行った方が良いという声が多かった。ということもあり、JPGU との関係をどうするかという課題が上がってきた。

秋季大会については、東北支部ではないが一部の支部からは、ボランティアで大会運営していることについて職員の負荷が高くなっていることに対する懸念の声が上がった。このようなことから WG では、春季大会では JPGU との関係はどうするか、秋季大会では支部での大会運営、気象台のみなさんと大学関係者との間でどのように運営のやり方をするか、ということの計 2 つが WG の検討課題となっている。

とりまとめの方向としては、春については JPGU との共催、気象学会単独での春の大会は行わないで、JPGU の共催のセッションを充実させるという形を考えている。ただ、JPGU だと昼休みや夕方とかに有料の部屋を借りることができるが、春の大会でやってきた表彰などのものを全部やることはおそらくできないので、秋季大会に回らざるを得ない。

昨年の仙台、一昨年の札幌など、参加者も多く研究発表以外の研究会等が増えると、負荷が増えるので、そこをどうするかということも WG で検討している。

なので、方向性としては、春は JPGU との共催、秋は対面を中心としてハイブリッドも取り入れた形を検討している。

問題としては、JPGU は大会参加費が高いという問題があるので、その辺をケアする必要がある。あと、ある意見として、春季大会は東京で気象庁と気象学会が連携して、テ

ーマを現業に役立つ部分に絞って、研究会などをやるなど、気象庁との連携を深めるべきではという意見があった。

秋の大会については、事務局運営等を、大学関係者の方にもう少し色々やってもらったほうが良いという意見があった。ただ現状は気象台の方にはかなりお世話になっているので、将来的には大学関係者中心にやるとしても、当面の問題として、どうやって気象台の方と一緒に秋の大会を運営していくか、具体的に決めているわけではないが、少しずつ大学や研究機関や研究所で秋の大会を行うという大きな方向で検討している。

橋本

ご意見等あるか。

早坂

気象台の方にお聞きしたいのだが、春季大会は JPGU との共催という形にして、春季大会としては開催しないという方向について、参加費の問題もあるので、どう思われるか。

小出

業務にかかわる発表であれば、海外での発表を含めて一部は参加費を支出するということがあるが、全部は厳しいところなので、参加費が高くなることは厳しい面もある。

早坂

他に何かご意見等あるか。

小出

補足すると、まだ支部のほうで意見をまとめて本部へ送るという話は、本部事務局から来ていないが、現状について、気象台や大学側など様々な立場から意見を頂ければ幸い。

山本

秋田の気象台でも気象学会員が少なく、今回気象講演会が開催されるということで慌てて入ったというところ。本庁にいたときは、気象台職員が学会員である割合が大きく、少しいびつさを感じた。気象台は、最近は地域防災にシフトしていて、学術というより応用的なところ、社会的な側面のところが大きくなっているため、学術的なほうに近い大学関係の方などに応分の負担をお願いするところが公平なのかなと感じている。

早坂

そういった声はあちこちから聞こえてきているので、今回の WG での対応に至っている。

橋本

他に何かあるか。

細見

先ほどの話で、秋の大会は大学のほうでもう少しやっていく、ただ今すぐは難しいということがあったが、昨年の仙台での気象台の大会事務については、前回の仙台大会から年数がたっていることもあり、ノウハウが蓄積されていないと感じた。気象台の人事異動は2、3年なので、次の秋季大会の時には今回携わった職員はほぼいないと考え、大学へ引き継ぐノウハウがない状態でやることになるので、その辺を今後どうしていくかというのが課題と考えている。

早坂

その辺は本部がもっと積極的に関与することが重要と感じている。本部の理事に大会担当理事という役割を持たせ、秋の大会のノウハウを蓄積していき、本部がもっとサポートするべきではという話がでてきているところ。協賛金を集めることについても気象台職員ではなく本部のほうでしたほうが良いと思っている。

小出

秋季大会については今後11年に1回とか、ますます間が空くのでノウハウの蓄積というところは重要と感じる。

早坂

本部の方でノウハウの蓄積というところが必要と思っている。

山崎

一つ大きな危惧としては大会の間隔が長くなると、地方にとってはほぼ新規でやる形になるかと思うので、ノウハウの伝承や地方でしかできないこと以外は本部でやるというところが大事と思う。これまで気象台の方に負担をかけているところではあるが、一方で、大学もそれほど人材が潤沢ではないというところがあるので、身の丈にあった対応を検討してほしいと思う。

早坂

その辺は重々承知している。地震学会では、開催について手を挙げるところを募ってやるということだが、WGでは、そのやり方ではうまくいかない可能性があるのではやはりローテーションで回した方が良いという意見が多い。11年周期（秋季大会7年周期＋春季大会4年周期＝11年周期）で良いかどうかは今後検討していきたい。

森本

気象台の職員のみなさんのおかげで回ってきているところではあると感じているが、話を伺っていると、やはりこのままでは厳しいと感じている。大気化学のほうにも入っているが100人集まるかどうかという規模で、気象学会の800人というのは多いと思う。これだけの規模になると外部委託と委託できる予算を考えて、徐々に大学関係者が中心になっていくことが必要なのかなと感じた。ノウハウを本部に集めてというのは賛成だが、仙台には仙台固有のノウハウというのがあるかもしれないので、その辺のノウハウを事務局でどう継承するかということが課題と感じた。

早坂

地方のノウハウというところは難しいところがあるが、ノウハウをいかに継承し、支部の大会の事務局担当者の負担を減らして、大会参加者が納得できる運営ができるかというところに尽きると思う。いろいろ考えてみたいと思う。

橋本

これまでの議論をまとめて、本部に挙げるというのは現時点ではなかなか難しいと思うので、今の会議でこのような意見が複数出たということを経験することくらいしかできない気がするが。

小出

今のところ、支部としてこういった意見をまとめてくれという依頼は本部からはまだ無く、理事長からふわっとした依頼だったので、みなさんに状況を把握していただいたということで良いのではないか。

早坂

今の議論のことは、オフィシャルな形でなくてもいいので、私のほうにまとめて寄せていただければ、あとこの会議で出たこと以外でも何かあればお寄せいただければ。

橋本

今回出たご意見については、事務局でまとめたいと思う。あと、それ以外に思いついた

ことがあれば向こう1週間程度、事務局にお寄せいただき、両者を事務局で取りまとめる形にしたいと思う。

細見

山本理事から気象講演会の話があったが、気象台自身が様々な普及啓発活動をするときには、講演会をやるときにも報道の人をいれるなどして、波及する効果を狙っており、それなりの労力をかけるメリットがあると感じている。学会と共催でやっている各種活動についても、気象台や大学関係で協力いただいている部分などを世の中に活動を知らしめるという意味では大きいと思っているので、引き続き様々な機会をとらえて可能な範囲で共催をやっていきたいと思っている。

橋本

議題7はこれで終了としたいと思う。

●議題8

【その他】

中川から説明

●その他

細見理事から退任のあいさつ（3/8付けで異動）